

## はじめに

わたしは、「死」を「人生の卒業」と呼び、「葬儀」を「人生の卒業式」と呼んでいます。

政治、経済、法律、道徳、哲学、芸術、宗教、教育、医学、自然科学……人類が生み、育んできた偉大な営みは、なぜ生まれ、なぜ発展したのか。それは、「人間を幸福にするため」という一点に集約されます。

さらにはその人間の幸福について考え抜くと、その根底には「死」が必然として存在するのです。その「死」を、日本では「不幸があった」と表現することが、わたしには納得がゆきません。人間は、みな必ず死にます。「死」が不幸なら、人生は最初から負け戦なのでしょうか。

わたしは、「死」を絶対に「不幸」とは呼びたくないません。なぜなら、そう呼んだ瞬間、わたしは将来必ず「不幸」になるからです。死は決して不幸な出来事ではないのです。

葬儀は人類が長い時間をかけて大切に守ってきた精神文化であり、人類の存在基盤だと言えます。

あらゆる生命体は必ず死ぬ。もちろん人間も必ず死ぬ。親しい人や愛する人が亡くなることは悲しいことです。しかし、決して不幸なことでは現の場ではないでしょうか。つまるところ、葬儀とは人生の卒業式であり、送別会だと思うのです。

卒業式というものは、本当に深い感動を与えてくれます。それは、人間の「たましい」に関わっている営みだからだと思います。わたしは、この世のあらゆるセレモニーとはすべて卒業式ではないかと思っています。七五三は乳児や幼児からの卒業式であり、成人式は子どもからの卒業式。

そう、通過儀礼の「通過」とは「卒業」のことなのです。

結婚式というのも、やはり卒業式だと思います。なぜ、昔から新婦の父親は結婚式で涙を流すのか。それは、結婚式とは卒業式であり、校長である父が家庭という学校から卒業する娘を愛しく思うからです。

そして、葬儀こそは「人生の卒業式」ではないでしょうか。

最期のセレモニーを卒業式ととらえる考え方が広まり、いつか「死」が不幸でなくなる日が来るこことを心から願っています。

## 【目次】

● 自分の葬儀をイメージする	.....	06
● 葬儀は何のためにあるのか	.....	07
● 愛する人の心を葬儀が守る	.....	09
● あなたは、永遠に生きられる	.....	12
● 「遺体」の本当の意味とは	.....	14
● 享年について考える	.....	16
● あの世には時間はない	.....	18
● この世には、すべてに時がある	.....	20
● 死はけつして不幸ではない	.....	22
● そして、また会える	.....	24

佐久間 庸和著